

【施策名：分野V 「環境先進都市・京都」の実現 施策35 新技術の利用など環境と調和した施設整備の推進】

消防水利として自然水利を有効利用

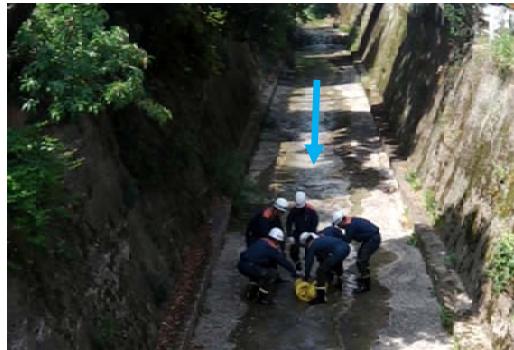
名称：河川等止水シート

概要：通常は水深が浅く消火用水として使用できない**河川等止水シート**により堰き止め、**簡易ダム**を作ることにより消防車による吸水を可能とした。

効果：

- ・大震災等により消火栓が使用できなくなった場合の消火用水の水源として防火水槽の新設や河川改修を行うことなく、**自然水利（河川）**を有効に活用することが可能となる。
- ・搬送が容易で、河川の任意の場所で消火活動が可能となる。

設置状況(紙屋川)



普段は水深が浅く(10~20cm)、ポンプ吸水は不可能



河川等止水シートより水深が約50cm程度になりポンプ吸水が可能

【参考】

- ・河川等止水シート 1基 約30万円
- ・防火水槽
40m³ 約900万円
100m³ 約1,900万円

※河川等止水シートにより得られる水量は約280m³
(消防局の想定水量)



河川等止水シート

交差点形状見直しによるコスト縮減

【工事名】

交差点改良工事
(主要府道 西京高槻線他)

【概要】

交差点形状を見直し、右折車線設置に代えて複合レーン（右折車線相当幅員）を導入することに変更して交差点のコンパクト化を実現

【効果】

- ・交差点形状を見直し、コンパクト化を図ったことにより、工事費、用地補償費を縮減
- ・施工規模の縮小により、事業期間が短縮し早期の事業効果発現

